

【第2部】 わいわいカフェ

ファシリテーター：

川村 美智（静岡市女性会館館長）

島田 充子（しずおか女性の会会長）

村越 玲子（静岡市母子寡婦福祉会）

大塚 さえみ（大学女性協会静岡支部役員）

飯野 紀代子（未来クラブ会長）

コミュニティの貧困が原因ではないか。介護や保育はもともと女性労働的な考え方がある。最低限の賃金の経済的保障など社会保障の仕組みを変えていくべき。伴走型就労支援をより多くできればいいのではないか。やはり教育が問題だ。今、現実には弱っている女子に対して、背中を押してあげられるような力って何だろうか？自分たちに何ができるかについては、クエスチョンがいっぱいですが…。



世の中お金がかかり過ぎる。親がブランド指向だったり、日本全体が贅沢になっている。そんな中で貧困の連鎖が起きている。親の金銭感覚を育てる事が必要

だ。経済の勉強は若い時からやった方が良い。親がダイエットのために朝ご飯を食べず、子供にも食べさせない。今働いている人が、将来のために、生活保護など受けなくて済むように社会保険をしっかりとけて生活すべきだ。

貧困と貧乏の違いはあるのか、ないのか言葉の理解の仕方からスタート。昔はみんな貧乏だったが、お互い知り合い、コミュニケーションができていた。地域社会のつながりが薄く

なっている。地域で現在、子ども食堂もボランティアで運営されている。すばらしいと思う。地域での話したことを、いかにして行政へ届けていくかが大事だ。女性問題は男性問題でもある。ジェンダー問題は、なかなか解決されていない現状。リーダーの意識改革が必要だ。



常日頃は、女性史研究会として活動している。1970年以降、専業主婦と言われていた女性達が働き始めた。働き方はパート労働者。その後、時代の経済的变化の中で、男性もパート労働者に。派遣労働などの働き方も社会問題になった。仮にパート労働の女性が離婚すると10万そこそこの収入では、子どもの教育も満足にできず、貧困に陥っていく。女性もしっかりとした労働を担うためには、男性も家庭の役割を担うべきで、男女共同参画社会の推進が必要だ。

家族の崩壊が、困った人たちを生み出している。生活保護受給者になっていく。社会全体で、一人ひとりに合う制度を作る必要がある。津富先生の就労の伴走に、付き合っていけたらいいなと思いますがなかなか自分自身出来ないでいる。女性男性、共にジェンダーの意識改革。子どもは、社会のものだという、小さい時から教育が大事だ。もっと明るく人間らしい生き方ができる社会。イギリスの子どもたちが自分の当り前を語っていたが、人間性豊かな社会を望む。



【津富教授のまとめ】

新自由主義の社会は止まらない。富める人にお金を集中させる場合がある。そんな中だと、貧困の人はどんどん増えていく。中間層がいなくなり分断された社会になる。助けるべき人と助けるべきでない人がいるというライン引くのはやめよう。みんなが助かるような仕組みづくり。その代わりにみんなでお金を出すんだという風にした方が、社会の満足度が上がるのではないか。北欧は税負担が高い。北欧は40%が公務員。社会保障の中で雇用もあり、稼ぎに依存しなくとも生きていける。何時失業しても大丈夫という絶対の安心感を持っている。身の回りに困っている人がいたら、個別支援するのが当たり前ですが、制度設計をどうしていくかが大事だ。ベーシックインカムの話。その根源が女性運動であったということは、皆さんと共有できて意味深い。生存の確保を権利とする。新自由主義っていうのは、人権そのものを根拠としない社会だと思う。こういう社会だからこそ、やはり人権を基に議論すべきだと思う。

当事者運動が連帯できるか？力を合わせないと話にならないわけですよ。共通項は何かというところ“人”だっていうことです。人権に還元したい。社会の不正公平みたいなもの、貧困というものを乗り越えるにあたって、人として要求していいんだというようなことを根本にして議論していければと思う。

5. 今後の展望

わいわいカフェでの話し合い・アンケート調査の結果を検証し次年度のセミナーでは、「人権」を中心に据えた議論の展開ができるように準備を進めていきたい。

6. 協働団体

- ・一般社団法人 大学女性協会静岡支部
- ・静岡市するが女性の会

- ・一般社団法人 静岡市母子寡婦福祉会
- ・静岡市女性の会連絡会



7. その他（主なアンケート結果）

<特に良かったと思った点は>

- ◆グループワークでいろいろな人のお話を聞いたこと。
- ◆先生が、しっかりと統一されたテーマで、「新自由主義時代の特徴」を話してくれ、何が課題かしっかりと提示された点が良かった。
- ◆それぞれがその立場を通しての意見が出ていて、おもしろかったこと。
- ◆専門的な先生の話が伺えたこと。

◆参加者が少なかったが、いい話が聞けた。

<改善した方がよい点>

◆参加者が少なかった。

◆時間がやはり短い。

◆パワーポイントの資料をあらかじめ配ってほしかった。

◆テーマが大きすぎて難しい。

◆先生の意見をもう少ししっかりお聞きしたかった。

<このシンポジウムについて何でも>

◆こういうことを議論する場があることは、とても良いと思う。

◆折角の良い話を、もう少し多くの人に聞いてほしかった。

◆実際の貧困例がいくつかあると話し合いができやすかったのではないかな。

◆テーマが大きいのので、とても語りつくせないし、もっと深く知りたいこともあったので、時間が足りない感じだった。

◆前回に続いて参加しているが、今回学生さんがいなかったのが残念。

<女性と貧困について自由に何でも>

◆見えない貧困は、本当に現状の課題だと思う。

◆女性と人権についての話を聞きたい。

◆貧困の連鎖というよりも、親（現状）を何とかする社会的支援が必要。

◆子供の時から、お金の人生設計を教える必要があるのではないかな。

◆共通項は、人・人づくりをしっかりと。



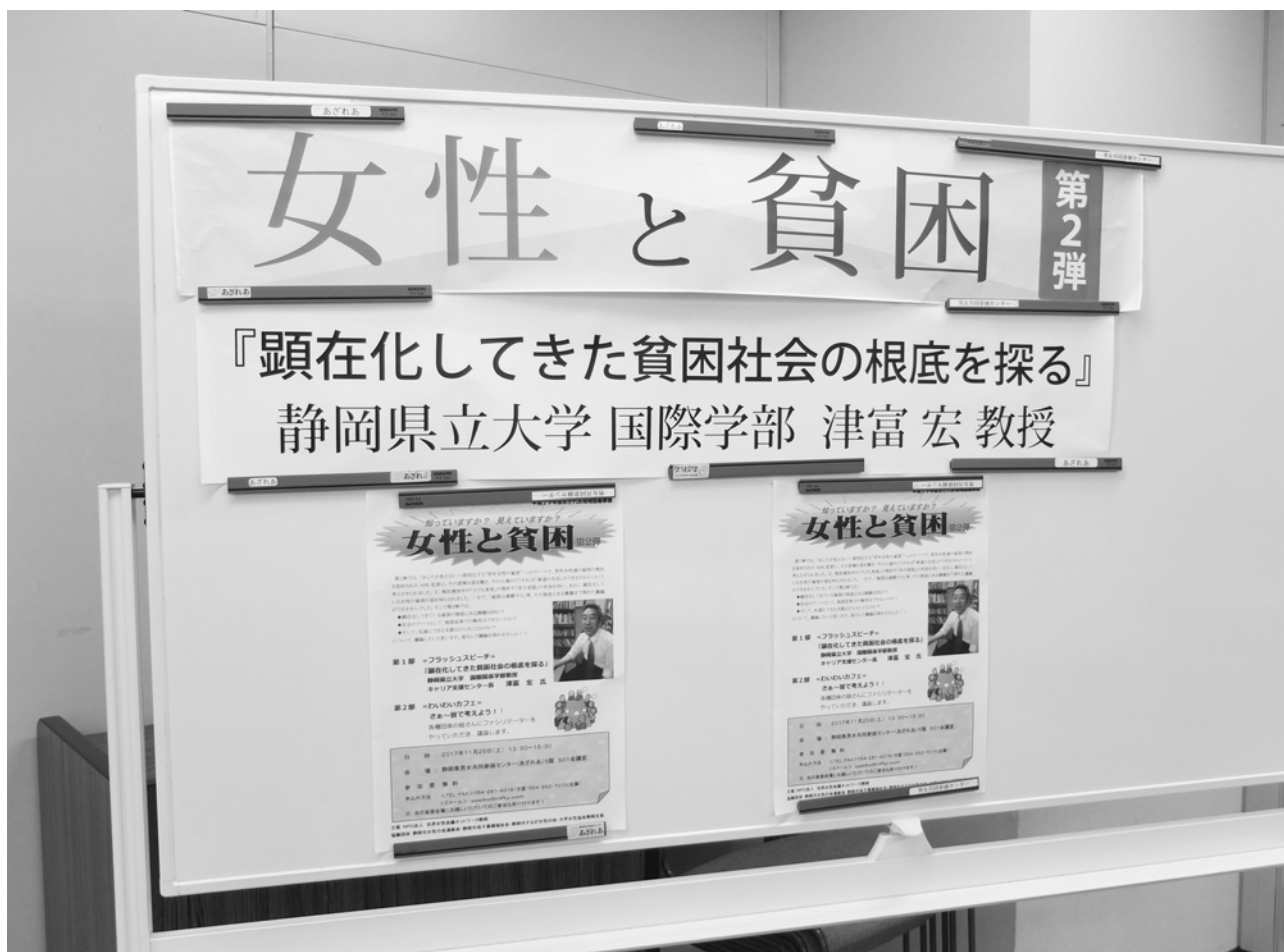
8. おわりに

『知っていますか？見えていますか？女性と貧困・第2弾』

アンケートにもありましたが、何と言っても、参加者が思っていたよりも少なかったことは残念だった。当事者運動の連帯がいかに大切か、輪をどうして広げていけるかとの教授の言葉が重い。それは、人のつながりと理解できたが…。いつ自分にのしかかるかわからない、このテーマ『貧困』は、当たり前の個別支援だけではなく、支援の制度設計をどうしていくかが大切だと実感した。貧困とは何か？お金が無い事？当たり前の暮らしができない事？お金がなくて暮らせない事？相対的貧困って？男女の貧困率はどちらが高いの？どんな女性が貧困なの？その原因は何なの？なかなか答えに窮すること設問ばかり。経済的に置かれてきた日本女性の立ち位置が、今日の女性の貧困に繋がっていると感じた。貧困の解消を権利の問題と捉えるにはどうすればいいのか？新自由主義の時代にどうして女性の貧困を減らしていけるかを考えていかなければならない。大きな課題だが、逃げる訳にはいかない。津富教授のアカデミックなシャワーに頭の整理整頓の時間が必要だ。

（文責 佐藤成子）





紙面の関係で、一部しか紹介できていません。
完成版をご希望の方はご連絡ください。
報告書『知っていますか？見えていますか？女性と貧困 第2弾』

【発行】

NPO 法人 世界女性会議ネットワーク静岡
代表 守屋 秀子

【事務局】

〒422-8046

静岡市駿河区中島430-9-305

守屋方 TEL: 054-281-4078

平成29年度あざれあ地域協働事業

知っていますか？ 見えていますか？ 女性と貧困 第2

第1弾では、「あしたが見えない〜深刻化する“若年女性の貧困”〜」のテーマで、若年女性達の貧困の現状を取材されたNHK記者に、その悲惨な姿を聴き、その人達がどうすれば「普通の生活」ができるのかについて考えさせられました。又、現在増加中の子ども食堂の現状や「母子家庭」の状況を伺い、まさに、顕在化している女性の貧困の姿を知らされました。一方で、「貧困は連鎖する」等、その根底にある課題まで深めた議論ができませんでした。そこで第2弾では、

- ◆顕在化してきた貧困の根底にある課題は何か？
- ◆社会のテーマとして、制度改革での解決はできないのか？
- ◆そして、私達にできる支援はどんなことなのか？

について、議論したいと思います。皆さんで議論を深めませんか？！

第1部 「フラッシュスピーチ」
『顕在化してきた貧困社会の根底を探る』
静岡県立大学 国際関係学部教授
キャリア支援センター長 津富 宏 氏

第2部 「わいわいカフェ」
さあ～皆で考えよう！！
各種団体の皆さんにファシリテーターを
やっていただき、議論します。




日 時：2017年11月25日(土) 13:30～15:30

会 場：静岡県男女共同参画センター(あざれあ)5階 501会議室

参 加 費：無 料

申込み方法：<TEL・FAX>054-281-4078(守屋)054-262-7016(佐藤)
<Eメール> sseiko@nifty.com

※ 当日直接会場にお越しくださいのご参加も受け付けます！

主催 NPO法人 世界女性会議ネットワーク静岡
協働団体: 静岡市女性の会連絡会・静岡市母子家族福祉会・静岡市若者の会・大学女性協会静岡支部